

東 風

第22号

平成17年 9 月

「長期研修修了者の連携と新たな発進」

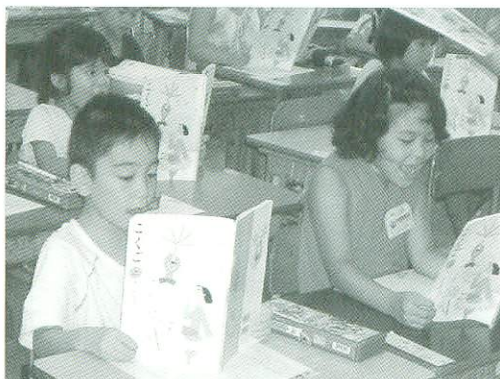
島尻教育研究所 所 長 金城 弘一

「スポーツ文化を通して、心豊かな人間性の育成を」

島尻地区校長会 中学校会長 前城 清

■ 研究報告 島尻教育研究所 第2 2 期教育研究員

- | | |
|--------------|------------|
| ○ 教育研究員一覧 | ○ しなのめ教室から |
| ○ 短期研修 | ○ 第2回修了者の会 |
| ○ 長期研修を振り返って | ○ 新規購入図書紹介 |



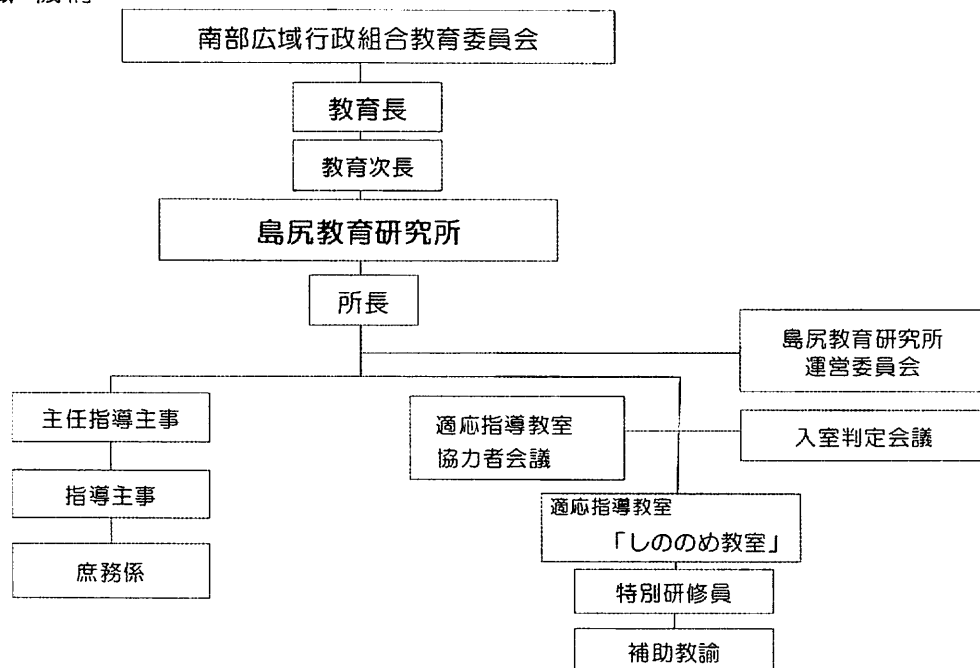
南部広域行政組合
島尻教育研究所

● 設置の目的

教育に関する調査・研究及び教育関係職員の研修を行い、資料提供並びに教育相談等の事業を通して、島尻地区における教育研究の中核的存在とする。

● 組織

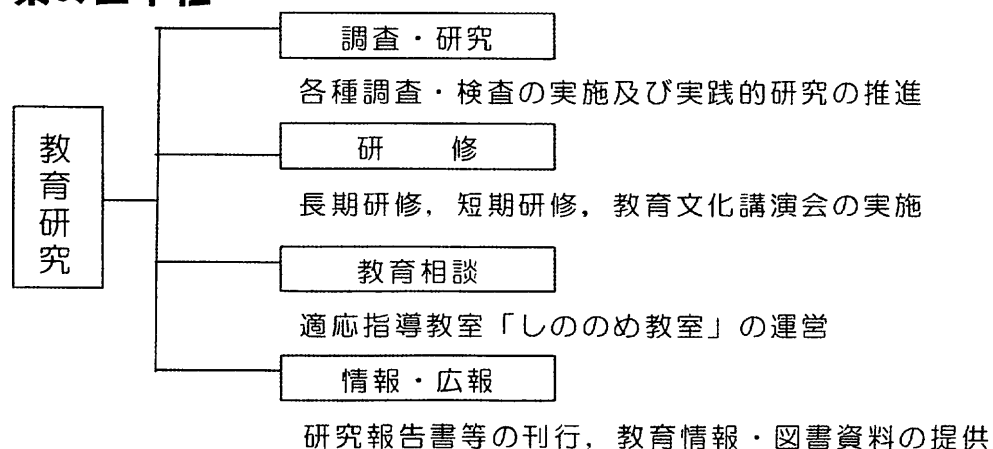
1 組織・機構



2 所員

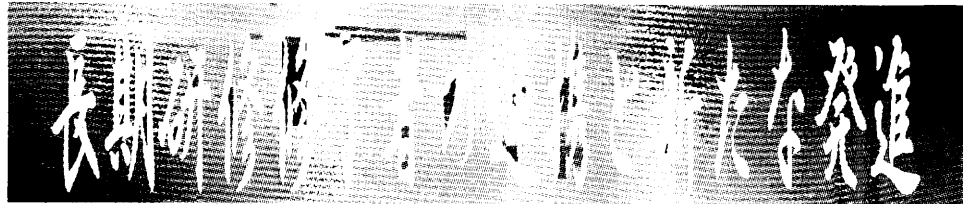
所 長	金城 弘一	しのめ教室担当	
		特別研修員 補 助 教 諭	大城 直樹 川平 美羽 玉城 かぐや
主任指導主事	新垣千鶴子		
指導主事	甲斐 英児	庶 務	宮里 紀子

● 事業の四本柱



目 次

「長期研修修了者の連携と新たな発進」	
島尻教育研究所 所 長 金城 弘一	1
随想「スポーツ文化を通して心豊かな人間性の育成を」	
島尻地区校長会中学校会長 前城 清	2
1 平成17年度後期事業計画	3
2 島尻教育研究所運営委員一覧・後期教育研究員一覧	4
3 第2回修了者の会	5
4 平成17年度短期研修講座	
(1) 幼稚園教育講座	6
(2) コンピュータ実技研修	7
5 しなのめ教室から「全国に取り組みを報告」 ー第12回全国適応指導教室連絡協議会で発表ー 適応指導教室「しなのめ教室」 特別研修員 大城 直樹	8
6 第22期教育研究員テーマ等一覧	9
7 第22期教育研究員研究報告	
(1) 東風平町立東風平小学校 教諭 大 城 明 海	10
(2) 座間味村立阿嘉小学校 教諭 金 城 明 美	11
(3) 豊見城市立長嶺小学校 教諭 平 良 振 二	12
(4) 豊見城市立豊見城中学校 教諭 根路銘みどり	13
(5) 知念村立知念中学校 教諭 大 湾 悟	14
8 長期研修を終えて 第22期教育研究員委員長 大湾 悟	15
9 新規購入教育用図書	16
10 島尻教育研究所 逍遙歌	18



島尻教育研究所 所長 金城 弘一

南部広域行政組合島尻教育研究所は、昨年創立10周年を迎えた。

本研究所は、設立の趣旨である「新しい時代の教育に対応できる教師の指導力の向上を図る」ことを踏まえ、平成6年4月南部広域行政組合教育委員会の事業として設立された。以来、南部広域行政組合の支援と関係者の協力、歴代所員の研究所運営への努力によって島尻地区における教育研究の中核的存在として、今日まで発展を遂げてきた。

平成16年度現在長期研修修了者は、154名に至っている。その一人一人が研修の成果を生かし、それぞれの学校や教育行政で活躍が見られることは喜ばしいことである。

今、学校教育に求められているのは、子どもたちに基礎・基本を身につけさせ、自ら学び自ら考えるなどの「生きる力」の育成である。中でも「確かな学力」はその重要な要素となる。「確かな学力」を身につけるには児童・生徒の実態に合わせた授業の改善が求められる。したがって、教師は日々研鑽し、「自ら学ぶ意欲や学び方、学ぶ過程を重視した学習」、「共感的な理解に基づく指導・支援」等「わかる授業」の実践のために指導力の向上に一層努めなければならない。

このような状況にあって、本教育研究所の修了者同士の連携を図り、人材集団として更に大きな力を育て、学校教育課題や島尻教育研究所等に対する支援を行うことによって、島尻教育の充実発展に寄与できる組織作りをしようと考え、平成16年度「島尻教育研究所長期研修修了者の会」（東雲の会）を立ち上げた。会の運営については修了者の意向を反映しつつ推進を図りたいと考えているが、当初は次のことを目的・内容として出発させた。

会の目的として、諸先輩の設立への思いを大事にする。今日的な教育課題に対する研鑽の場とする。主体的・発展的に会を推進し、魅力ある活動にする。修了者や関係者との交流・懇親を深め、相互の連携を図る機会とする等とした。その実現を目指す会の持ち方として、個々の資質・能力が高まる研修（講演会等）、グループ研修、実践的な指導力向上のための教育実践報告会、会の趣旨の充実を図る会員相互の協議会、情報交換会（懇談会）等を考えている。ちなみに第1回は、初代所長の講話をメインとして、教育長あいさつ、会の趣旨説明、運営委員長の激励の言葉、情報交換会（懇談会）の会順で展開し本会をスタートした。参加した修了者の皆さんの声として、① 修了者のネットワークを広げる上で意義深かった。② 楽しい講話の中から、人の生き方、教師のあり方を学ぶことができた。③ 教育懇談会は研修仲間、所長や指導主事、関係者と久しぶりに懇親を温め楽しいひと時を過ごすことができた、などが寄せられた。このような反省を踏まえて、第2回目は、講演者の地域人材の活用、修了者による会運営の主体性の発揮など、新たな成果を得た。

島尻教育研究所からは、毎年各期毎に逞しく成長した修了者が次々と巣立っていく。一人一人の力を寄せ合い、学校現場や教育研究所等の支援組織として、「東雲の会」が育っていくことを期待したい。



随 想 「スポーツ文化を通して、 心豊かな人間性の育成を」

島尻地区校長会中学校会長 前 城 清

昨年の夏に、史上最多の国と地域の参加によるアテネオリンピックが開催された。開催期間中は、連日の日本選手団の目覚ましい活躍に日本中がわき立ち、また、各競技において繰り広げられた数々の感動的なドラマは、スポーツの素晴らしさを改めて私たちに教えてくれた。

スポーツは、人間の心身両面の欲求にこたえる世界共通の文化であり、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に大きな役割を果たすものである。心身ともに大きな成長を成し遂げる中学生の時期に、日常的にスポーツに親しむことは、健やかな心と体を育む上で大きな意義を有するとともに、生涯にわたってスポーツに親しむ基礎を培うことにつながる。

オリンピックの話になるが、近代オリンピックの憲章は、勝者の栄光は個人に与えられるものであって、国家対抗ではないことを謳っている。しかし、これは建前というものであろう。世界中どここの国でも、自国の選手に声援を送り、自国の選手が金メダルに輝けば踊り上がって喜び、自国選手のメダル獲得数が多ければ多いほど、その国のボルテージは高まるものである。事実としてオリンピックが国別対抗戦であることは、明々白々である。

アテネでの日本は金メダル16個を獲得した。アジア最初のオリンピック開催国として1964年（第18回）東京オリンピックの時と同数である。金・銀・銅のメダル合計は37個で、これまた最高の獲得数である。国別で見ると、金メダル獲得数なら5位、獲得メダル数なら6位で、予想以上の大活躍であった。

戦前の日本はスポーツにおいては後進国であり、鍛錬といえばもっぱら武道で、そもそもスポーツの概念がなかったようである。当時は、スポーツの理論などお粗末なものだったようで、トレーニングの方法も確立していなく、施設も不十分、スポーツ・エリートを育てる体制も確立していなく、スポーツの中心は学生で裾野の広がりもなく、学生の中で好成績を上げた者を国の代表として送り出していたようである。オリンピックの華である陸上競技では、現在は歯が立たない感じになっている。確かに女子マラソンでは金メダルを取ったが、他の種目では予選を勝ち抜いてファイナリストに残れば上々の出来だといえる。でも戦前には、棒高跳びや三段跳びで大活躍して、日本のお家芸といわれ、立派にメダルを取っている記録が残っているのである。

現在は、それぞれの国際スポーツ大会等で、日本選手のめざましい活躍に感動する。やはりその背後にある日本国の代表としての気概、選手自らが力量を発揮し、「国際舞台で頑張るぞ」という気迫等の頑張れだと思われる。選手のその頑張りが、我々国民に感動と喜びを与える。次代を担う青少年が、このような成就感等を味わいながら、スポーツ文化を楽しみ、豊かな人間性や社会性・友情等を育ててほしいと願う。

日本中学校体育連盟憲章にも、体育・スポーツの国際交流を通して、中学生の国際理解の推進と国際スポーツの振興に努める、と謳われているのだから……。

後期事業計画

月	日	曜	行 事 名
10	3	月	後期（第23期）教育研究員入所式14:00-、指導講師委嘱状交付式
	5	水	平成18年度教育研究員募集要項等発送
	14	金	第2回 しののめ教室入室式
	21	金	研究計画検討会（24日まで）
	26	水	幼稚園教頭・主任等研修会運営要領説明会 15:30-
11	1	火	幼稚園教頭・主任等研修会（～2日）
	4	金	平成18年度教育研究員申込〆切（教育委員会）
	11	金	平成18年度教育研究員申込〆切（教育研究所）
	16	水	第5回 学校現場で使えるカウンセリング実践講座
	18	金	沖縄県教育研究所連盟研究発表会・講演会
	24	木	教育講演会（講師：月森久江 杉並区立中瀬中学校教諭） 「普通学級におけるLD・ADHD・高機能自閉症についての理解と支援のあり方」
	25	金	公開授業「発達障害を持つ子の理解」（月森久江先生：東風平中）
	30	水	理論研究内容検討会（～12/2日）
12	1	木	平成18年度教育研究員決定通知発送
	16	金	後期検証授業・保育 前半開始～12/21
	28	水	南部広域行政組合 仕事納め
1	4	水	南部広域行政組合 仕事初め
	11	水	第6回 学校現場で使えるカウンセリング実践講座
	18	水	後期検証授業・保育 後半開始～1/25
2	17	金	研究報告書検討会（～20日）
	22	水	平成17年度 実践事例報告会（しののめ教室）
3	9	木	しののめ教室 終了式 16:00-
	16	木	研究報告会13:30- 平成18年度前期教育研究員リエンション
	27	月	第23期教育研究員修了式15:00- ， 第2回運営委員会13:30-
	31	金	南部広域行政組合 離任式

※ 行事の期日については、若干の変更もありますのでご了承ください。

島尻教育研究所 運営委員一覧

役 職	氏 名	所 属 等	任 期
委 員 長	上原 弘子	学識経験者代表(元翔南小学校長)	H. 16. 4～H. 18. 3
委 員	比嘉 泰男	島尻地区校長会 小学校会長	H. 17. 4～H. 19. 3
委 員	前城 清	島尻地区校長会 中学校会長	H. 17. 4～H. 19. 3
委 員	亀川 盛敏	島尻地区教頭会 会長	H. 16. 4～H. 18. 3
委 員	徳門 正芳	島尻地区教頭会 研究部長	H. 17. 4～H. 19. 3
委 員	里 秋美	島尻地区公立幼稚園教頭会 会長	H. 17. 4～H. 19. 3
委 員	玉城 義一	島尻市町村指導主事協議会 会長	H. 17. 4～H. 19. 3

平成17年度【後期】教育研究員氏名一覧（第23期教育研究員）

校 種	研究領域	氏 名	所 属	希 望 研 究 テ ー マ
幼稚園	幼稚園教育	金 城 明 美	潮平幼	幼児一人一人の発達に応じた教師の援助の工夫
小学校	算 数	佐久川かつ枝	米須小	自ら学び考え、進んで学習する子の育成
	道 徳	玉那覇三千代	潮平小	心に響く効果的な道德教育の指導
	特別支援	宮 国 定 明	上田小	「特別支援教育」に学級でどのように取り組めばよいか
	教育相談	三 浦 リ カ	百名小	よりよい人間関係の構築をめざして
中学校	保健体育	神 谷 公 子	潮平中	生活の中で保健・安全に積極的に取り組むことのできる生徒の育成
	経 営	垣 花 英 正	高嶺中	学級・学年PTAとの連携の在り方

※希望研究テーマは、応募時のものです。

島尻教育研究所 第2回 修了者の会

趣 旨：島尻教育研究所長期研修修了者の連携を図ることを通して、島尻教育研究所並びに島尻教育の発展に資する。

日 時：平成17年8月24日（水） 18:00～21:00

場 所：南部総合福祉センター ホール

会 順

- | | |
|-----------|------------|
| 1 開会のことば | 6 会の名称について |
| 2 所長あいさつ | 7 激励のあいさつ |
| 3 教育長あいさつ | 8 懇親会 |
| 4 逍遙歌斉唱 | 9 閉会のことば |
| 5 講話 | |

参加者の状況

参加総数	115人
長期研修修了者	80人
歴代指導講師	8人
歴代所長・所員	5人
市町村教育長等	5人
研究所運営委員	6人
来賓・研究所所員等	11人

第2回長期研修修了者の会が8月24日（水）に開催され、修了者をはじめ、市町村教育委員会の教育長、歴代指導講師の皆さんなど、前回同様100人を超す参加がありました。

これからの教育と語る

（元）沖縄県教育委員会 教育長 津嘉山朝祥 先生



講師にお招きした津嘉山（元）教育長は、教育行政に携わる一方、小学校の校長や県立教育センターの所長も務められました。今回はその経験をもとに、行政と現場の双方の立場から、

これからの教育についてお話をいただきました。

特に現場の教師に対しては、教育のプロとしての自覚と自己研鑽の大切さを熱く語ってくださいました。参加者の感想にも「講話をお聞きして教職のプロとしての意識を再び目覚めさせることができました。」とあり、一人一人に大きなご示唆を与えていただきました。

今回からは修了者代表で構成した実行委員会が会の企画運営を行いました。

講話講師には元沖縄県教育委員会教育長の津嘉山朝祥先生をお招きするとともに島尻教育事務所の祖慶良順所長に激励のごあいさつを賜りました。

また、講話の後には、和やかな雰囲気の中で懇親会が行われました。



【懇親会のようす】 【修了者による三線】

ーお知らせー

島尻教育研究所修了者の会の名称が「東雲の会」に決定しました。

9月末の会員数は159名です。

事務局：998-9561（島尻教育研究所）

指導力 UP!

平成17年度 短期研修講座

今年度の短期研修講座では、現場のニーズに応えるよう「幼稚園教育」「幼稚園コンピュータ実技研修」「小中コンピュータ実技研修」の3講座を企画しました。各講座とも多くの先生方の参加があり、充実した研修会になりました。

幼稚園教育

実施期日：平成17年7月26日(火)～27日(水)

実施場所：南部福祉総合センター 1階ホール

募集定員100名 受講者104名

1日目

講話：「絵本で育てる言語能力と論理的思考」

琉球大学大学院教育学研究科 教授 嘉数 朝子

実技研修：「幼児の創造性と表現力を育てる親子絵本作り」

元金武町立嘉芸幼稚園

教諭 比嘉 幸子

2日目

講話：「今後の幼児教育の方向性」

浦添市立仲西幼稚園

副園長 比嘉 美也子

実践事例：「心豊かにたくましく生きる子の育成」ー幼小・幼保連携を通してー

沖縄市立諸見幼稚園

副園長 恩納 晴美

沖縄市立諸見小学校

教諭 松尾 剛

実践事例：「幼稚園における心身に障害のある幼児の指導について」

沖縄県立島尻養護学校

教諭 石川 まゆみ

今回の講座では、1日目に絵本を生かした幼児教育の在り方について講話と実技研修をもとに研修しました。嘉数教授からは幼児の発達段階を押さえた絵本の与え方や読み聞かせの方法など、理論的なお話をしていただきました。また、比嘉先生による絵本作りの実技研修では、草花を使った色鮮やかな絵本作りについて学びました。

2日目は、幼稚園教育の今日的課題を中心に研修しました。まず、仲西幼稚園副園長の比嘉美也子先生からは、今後の幼児教育の在り方について、沖縄県の幼児教育の現状をもとにお話ししていただきました。また、幼小や幼保の連携の在り方について、諸見幼稚園と諸見小学校の実践から、学ぶことができました。さらに、障害を持つ幼児への対応の仕方など、石川先生に専門的な立場からくわしくお話ししていただきました。



【草花を使ったオリジナル絵本作り】

コンピュータ実技研修



(1) 幼稚園コンピュータ実技研修

実施期日：平成17年8月1日（月）～2日（火）

実施場所：伊良波小学校 募集定員30名 受講者29名

内 容：1日目「ワープロソフトを使った園だよりの作成」
2日目「プレゼンテーションソフトの使い方」

(2) 小中コンピュータ実技研修

実施期日：平成17年8月4日（木）～5日（金）

内 容：初級（伊良波小学校） 募集定員30名 受講者27名

1日目「ワープロソフトを使った学級だよりの作成」
2日目「プレゼンテーションソフトの使い方」

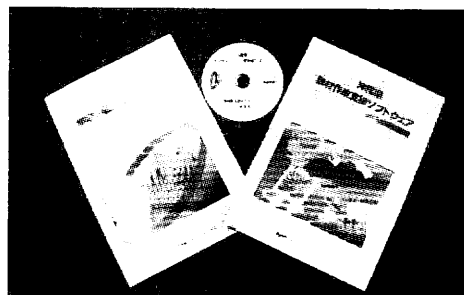
中級（東風平小学校） 募集定員30名 受講者16名

2日間「教材作成支援ソフトを使った教材作成」

幼稚園のコンピュータ実技研修には多くの先生方の受講が予想されたため、今年は定員を10名増やして対応しましたが、それを上回る59名の応募者がありました。そこで、受講定員に比較的余裕のあった小中コンピュータ研修の初級コースへの受講も可能にすることで、37名の先生方を受け入れることができました。



【お互いが講師となって教え合い】



【沖縄県版教材作成支援ソフトなど】

また、小中コンピュータ実技研修には今年も初級、中級の2コースを設定してプログラムを組みました。その結果、受講者のニーズにあった研修を行うことができました。特に中級コースでは、沖縄県立総合教育センターIT教育課の全面的な協力を得て、教材作成支援ソフト、学習評価支援ソフトおよびマニュアルの提供を受けました。

これらのソフトは、沖縄県版として作成されたもので、県内のどの学校でもすぐに使えるようになっています。また、操作も比較的簡単なため、自作の教材を作成したり教育センターに登録されている教材を取り出したりして、授業で活用することができます。

受講者は、2日間で教材作成のノウハウを修得しソフトの操作に慣れ、それぞれアイディアいっぱいの教材を完成させることができました。

しののめ教室



全国に取り組みを報告

—第12回全国適応指導教室連絡協議会で発表—

島尻教育研究所 適応指導教室「しののめ教室」

特別研修員 大城 直樹

去る7月25日（月）、26日（火）に第12回全国適応指導教室連絡協議会全国会議に参加しました。今回は、2日目の分科会で「しののめ教室」の実践発表に発表者として参加しましたので、その概要を報告したいと思います。

まず、発表した内容ですが、去年の「しののめ教室」の取り組みで、活動の重点として次の5項目を取り上げました。

- (1)個別適応指導と集団適応指導のプログラムの工夫
- (2)学習活動の工夫
- (3)教育相談の工夫
- (4)家庭・学校・教育委員会・その他関係機関との連携の工夫
- (5)SSN整備事業の工夫

「しののめ教室」では、体験活動、学習活動、教育相談を3つの柱として児童生徒の実態に応じた援助指導を行っています。援助指導においては、『自立への力を育てる』ということを経験活動の視点と捉えています。すなわち、児童生徒自らが「気づく」→「考える」→「決める」→「行動する」というプロセスを重視することと、「好きなこと」「できていること」に焦点を当てそれを拡大することで自己肯定感を高めることを大事にしています。特に体験活動は、ボランティア講師を招聘しての制作活動、芸術・文化活動、勤労・生産活動等の取り組みや、その他の交流活動を通して児童生徒の自立への力を育てるための活動に力を入れています。また、学校等の関係機関との連携として、「しののめ教室」の情報を提供すること、「しののめ教室」に足を運んでもらうことを中心に取り組んでいます。具体的には、学級だより、親の会、出席状況報告、ケース会議、学級担任会議、チャレンジ登校の援助等です。そして、SSN整備事業として、不登校対策のためのカウンセリング講座、保護者相互支援の会、適応指導教室連絡会等を開催し、「ネットワーク」を通して不登校児童生徒へのサポートを行っています。

これらの取り組みに対し、質疑や助言等がありました。全国の適応指導教室で課題とされているのが、いかにして学校復帰までつなげていくかということです。従って段階的な援助指導、特にチャレンジ登校についての質問が集中しました。また、大分県教育センター教育相談部長の佐藤敬子氏より多くの助言が得られました。その中で、いろいろな人たちと関わる体験活動は、子どもたちにいい意味での刺激を与え（ソーシャルボンド）、とてもよいということと、体験活動、学習活動で子どもたちのできることからスタートして、それを伸ばしていく取り組み（解決志向）は高く評価されました。そして、子どもたちには「復元力」があり、そのタイミングを図るために「連携」が必要であるとしていました。

今回の全国会議に参加して、子どもたちの学校復帰、自立を目指して、連携のあり方を工夫していく必要性を改めて強く感じました。

平成17年度【前期】第22期教育研究員テーマ・指導講師一覧

	教育研究員	研究領域	研究テーマ	指導講師
1	東風平小学校 大城 明海	小学校 国語	読むこと的能力を育てるための指導の工夫 －「声に出して読むこと」を通して－	米須小学校 校長 栗森 栄子
2	阿嘉小学校 金城 明美	小学校 算数	数についての感覚を豊かにする指導の工夫 －十進位取り記数法の理解を図る算数的活動を通して－	島尻教育事務所 主任指導主事 大城 朗
3	長嶺小学校 平良 振二	小学校 算数	数学的な考え方を育てる指導の工夫 －ワークシートの活用と算数的活動を通して－	具志頭村教育委員会 指導主事 川口 正一
4	豊見城中学校 根路銘 みどり	中学校 英語	積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成 －構成的グループエンカウンターの手法を取り入れた言語活動を通して－	島尻教育事務所 指導主事 山川 満夫
5	知念中学校 大湾 悟	中学校 学年経営	学年の協働体制の確立を目指す学年経営 －総合的な学習の時間における学校支援組織との連携を通して－	南風原中学校 校長 新里 光子



読むことの能力を育てるための指導の工夫

- 「声に出して読むこと」を通して -

東風平町立東風平小学校教諭 大城 明海

(1) 研究の概要

読むことの能力を育てるために、文学的文章教材の学習指導において、「声に出して読むこと」の形態を効果的に取り入れる工夫を行った。

(2) 指導上の工夫点

児童が文章をスラスラと読めるようになるために以下の工夫を行った。

- ① はっきりとした発音で読むことができるようにする。
 - ・教師の範読を聞かせる、「声に出して読むこと」の機会を多く取り入れる工夫、毎時間の導入時に発声・発音練習を入れる
- ② 意味内容が明瞭になるよう、ひとまとまりの語や文として読むことができるようにする。
 - ・一単位時間に「声に出して読むこと」のいろいろの形態を取り入れる工夫

(3) 指導の実際



【いろいろな形態で教科書を読む様子】



【発音・発声練習の様子】

(4) 児童の変容

- ① 授業の導入時に発音・発声練習を入れたことで、姿勢、口形、声の大きさを意識しながら、「声に出して読むこと」を行うようになった。
- ② いろいろな形態で「声に出して読むこと」を行ったことで、句読点に気をつけながら、文章をスラスラ読めるようになった。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 範読を聞かせたこと、「声に出して読むこと」の機会を多く入れたこと、発音・発声練習を入れたことで、はっきりとした発音で「声に出して読むこと」ができるようになった。
- ② いろいろな形態を組み合わせ「声に出して読むこと」を行ったことで、意味内容が明瞭になるように、ひとまとまりの語や文として読むことができるようになった。
- ③ 「声に出して読むこと」の能力を定着させるために、これからも継続的に指導していくとともに、説明的文章、詩等、他教材での指導の工夫を図りたい。

※詳細は平成17年度 研究報告書第22号 P 1～P10に掲載



数についての感覚を豊かにする指導の工夫

- 十進位取り記数法の理解を図る算数的活動を通して -

座間味村立阿嘉小学校教諭 金城 明美

(1) 研究の概要

十進位取り記数法の理解を図り、数についての感覚を豊かにするために、算数的活動を取り入れた授業の工夫を行った。

(2) 指導上の工夫点

十進位取り記数法の理解を図り、数についての感覚を豊かにするために、次のような算数的活動を行った。

- ① 「つかむ過程」で、10ずつ、100ずつのかたまりに気づかせ、数を整理して数えさせる工夫
・ 7種類の数えるもの（割り箸、つまようじ、クリップ等）を準備
- ② 「追究する過程」で、1000までの数について数えたり読んだり書いたりして数の概念を理解させるための工夫
・ タイル、数カード、模擬お金、数字、数直線
- ③ 「広げる過程」で、数についての感覚を広げるための発展的な算数的活動の工夫
・ 数を多面的にとらえることができる問題の解決、買い物ごっこ遊び

(3) 指導の実際



【具体物を数える算数的活動をする児童】



【模擬お金を使った買い物ごっこ遊び】

(4) 児童の変容

- ① 数を数える操作活動で、10のかたまり、100のかたまりを作って数えた方が良いことに気づいた。そして数を、タイル、数カード、模擬お金、数字、数直線等に表す探究的な算数的活動を取り入れることで、十進位取り記数法を理解することができた。
- ② 数のいろいろな表し方ができ、数を多面的にとらえることができるようになった。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 数える操作活動を取り入れたことにより、数を整理する必要性に気づき解決への意欲を持った。
- ② 探究的な算数的活動をすることによって、十進位取り記数法を理解した。
- ③ 数を多面的にとらえるための問題を解くことにより、数についての素朴な感覚を広げることができた。
- ④ 十進位取り記数法の各学年に応じた系統的な指導体系と指導法を研究したい。

※詳細は平成17年度 研究報告書第22号 P11～P20に掲載



数学的な考え方を育てる指導の工夫

－ ワークシートの活用と算数的活動を通して －

豊見城市立長嶺小学校教諭 平良 振二

(1) 研究の概要

数学的な考え方を育てるために、学習過程の各段階でワークシートの活用と算数的活動の工夫を図った。

(2) 指導上の工夫点

数学的な考え方を育てるために次のような指導の工夫を図った。

- ① 「つかむ段階」で、学習の見通しをもたせるために、ワークシートに結果の予想や解決方法の予想を書かせる
- ② 「しらべる段階」で、多様な考えを引き出すために、算数的活動を取り入れる。
- ③ 「まとめる段階」で、自分の考えを整理させたり、思考を深めさせたりするために、ワークシートに学習感想を書かせる。

(3) 指導の実際



【算数的活動の様子】



【算数的活動の様子】

(4) 児童の変容

- ① ワークシートに結果の予想や解決方法の予想を書くことで、学習の見通しをもつことができた。
- ② 算数的活動を取り入れることで、多様な考えを引き出すことができた。
- ③ 学習感想を書くことで、自分の考えを整理したり思考を深めることができた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 学習の過程で、ワークシートの活用と算数的活動の工夫を図ることで、数学的な考え方を育てることができた。
- ② 学習感想を書かせることで、一人一人の学習状況が把握でき、指導と評価の一体化を図ることができた。
- ③ より多くの数学的な考え方を引き出すための指導の工夫
- ④ 学習感想を「第4段階」の感想に高めていくための更なる指導の工夫

※詳細は平成17年度 研究報告書第22号 P21～P30に掲載



積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成

－ 構成的グループエンカウターの手法を取り入れた言語活動を通して－

豊見城市立豊見城中学校教諭 根路銘 みどり

(1) 研究の概要

積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を目指して、構成的グループエンカウター（略称：SGE）の手法を取り入れた言語活動を研究し実践した。

(2) 指導上の工夫点

「コミュニケーションには人間関係を築く力もある」を念頭に次のような工夫を行った。

- ① 学級の実態把握
 - ・ 英語の授業に対するアンケート、Q-Uアンケートの実施、分析、活用
- ② ペアを組み、励まし協力して学習を進める
- ③ classroom Englishをジェスチャー等をいれた非言語的要素も含め習慣化
 - ・ 始めのあいさつ、プリント受け渡しの時のエチケット等
- ④ target sentenceは、生徒の実体験を表現（自己表現作文）
- ⑤ 自己表現作文を使ったコミュニケーションを図る活動
 - ・ 対話活動において、相づち等のSGEの手法を意識したコミュニケーションのマナーを使用
- ⑥ 授業の最後にシェアリングの時間を設定

(3) 指導の実際



【ペアでのshadowing(読み)の練習】



【対話活動の様子】

(4) 生徒の変容

- ① 相づち表現、目を見て聞く・話す等が定着してくると笑顔が多くなり積極性が出た。
- ② 読みの練習をペアで励まし協力することで、互いに上達し積極的に発表に挑んだ。
- ③ シェアリングシートの生徒の感想を紙面にまとめたことでいろんな意見を共有できた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 英語の授業でSGEの手法を取り入れることによって、対話しやすい雰囲気作りができた。
- ② クラスが対話しやすい雰囲気となり、積極的に対話活動に参加する生徒も増え、英語表現の定着も図れた。
- ③ まだ、積極的に対話活動に参加できない生徒や、クラスの雰囲気になじめない生徒への継続的な支援
- ④ よりよい人間関係が学習意欲の高まりにつながるような授業の工夫

※詳細は平成17年度 研究報告書第22号 P31～P40に掲載

<学年経営>



学年の協働体制の確立を目指す学年経営

—総合的な学習の時間における学校支援組織との連携を通して—

知念村立知念中学校教諭 大湾 悟

(1) 研究の概要

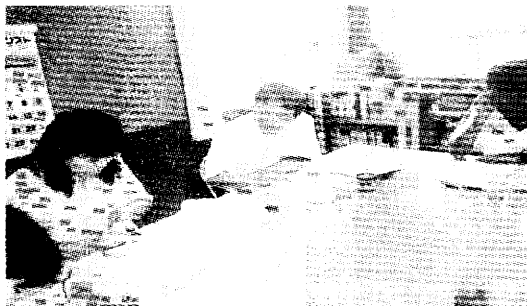
島尻地区の教職員にアンケートを実施し、学年の協働体制の実態を把握した。それをもとに、総合的な学習の時間における学校支援組織との連携を通して、学年の協働体制の確立を図った。

(2) 学年の協働体制の確立のための手だて

学年の協働体制の確立を目指すために、次のような手だてを行った。

- ① 島尻地区の教職員にアンケートを実施し、協働体制の実態を把握した。
- ② 学年教師が目的を共有化するために、学年共通の課題から達成可能な目的と役割方法を示した提案をした。
- ③ 達成の意欲を高めるために、提案内容について意見を述べ役割を決定し責任を明確にした。
- ④ 共通した実践を行うため、進捗状況表を活用した教育活動を行った。

(3) 手だての実際



学年会

【達成の意欲を高めるために、提案内容
について意見を述べ役割を決める様子】



総合的な学習の時間

【福祉協議会の専門職員から車いすの
使い方の指導を受けている様子】

(4) 学年の協働体制の確立のための手だての結果

- ① 島尻地区の教職員へのアンケートの結果、小規模校、中規模校、大規模校とも同じ傾向を示していることが分かった。
- ② 学年の課題に対して共通の目的を設定し、意欲的に共通した教育実践を行うことができた。
- ③ 総合的な学習の時間における地域との連携を深め、教育実践へ生かすことができた。

(5) 研究の成果と今後の課題

- ① 学年教師の目的の共有化を図り、目的意欲を高め、共通した教育実践を行うことにより、学年の協働体制の確立を図ることができた。
- ② 学校支援組織との連携を通して、総合的な学習の時間の充実を図ることができた。
- ③ 学年の協働体制を継続していくための提案方法の工夫・改善
- ④ 学校支援組織との連携を継続発展させた総合的な学習の時間の充実

※詳細は平成17年度 研究報告書第22号 P41～P50に掲載



長期研修を終えて

知念村立知念中学校教諭 大湾 悟

やわらかな日差しに、そろそろ秋の到来を感じる頃となり、私達前期研究員の修了の日も近づいてきました。

4月、私達5名は、島尻教育研究所第22期生として入所しました。入所当初、不安と期待の中、指導講師の適切なアドバイスや先輩研究員からの叱咤激励をいただきました。

いつも温かくご指導下さった金城所長。また、新垣主任指導主事、甲斐指導主事には、論文の構成、表現、研究理論の項立て、指導案の作成、検証授業、報告書作成、発表と納得のいくまで、幾度も幾度も検討会をもち指導していただき、心より感謝しております。

研究員一人一人の研究テーマは違いますが、教師としての資質・力量を高め、児童・生徒の心豊かで、確かな学力の定着を目指し研修を深めて行きたいという思いは一緒に、半年間互いに励まし合い、また切磋琢磨し合ってきました。今年は、離島での検証授業があり、離島の自然の美しさと素直な子ども達との出会いが心に残っています。

研究所の一週間は、逍遙歌の歌声が響きわたる月曜日の朝のミーティングで始まりました。水曜日の「大切な話」や金曜日の「3分間スピーチ」では、研究員、甲斐指導主事、新垣主任指導主事、金城所長のユーモアを交えた体験談や教育や人生に対する考え方を聴きながら、改めて「教育とは何か」を考え、そして自分を見つめ直す良い機会となりました。

所内研修では、「今、教師に求められる資質能力」をテーマに所長講話があり、教師としての心構えを学びました。玉寄次長の講話「組合の概要について」では行政と教育との関係を改めて知り、教育に対する期待の大きさを感じました。その他、「進路指導」「書道」等、様々な研修があり、これまでの教育活動を多角的に見つめることの大切さ、これから成すべきことは何かを示唆していただきました。初代所長の宮城恒彦先生には、講話の他、沖縄体験記『暗い銅抗のなかで』の小冊子、色紙等をいただき、その温かさに感謝しております。また、指導講師の先生方には、研究に対する助言を賜ったばかりでなく、教職に携わる者としての責任と誇り、情熱と真剣さを教示していただき、感謝の念でいっぱいです。

所外研修の、「特殊教育諸学校視察」では、特別支援教育や個に応じた指導の在り方を学ぶことができました。「沖縄の自然」では、昆虫や野鳥観察を通して沖縄の自然のすばらしさを実感すると同時に、沖縄の自然保護の在り方について考えさせられました。「環境学習」では、浦添市リサイクルプラザやクリーンセンターの見学があり、ゴミ問題についても深く考えさせられました。このようにいろいろな体験をさせていただき、視野を大きく広げることができました。

また、クラブ活動の時間もあり三線を習う機会に恵まれました。代表的な曲「安波節」「貫花」を練習し、三線を弾く楽しさを味わうことができました。

このように研修内容も多種多様で、毎日が学びと感動の日々でした。いつも温かいご指導をくださった金城所長を始め、新垣主任指導主事、甲斐指導主事には、研究員一同感謝しております。

最後になりましたが、このような貴重な研修の機会を与えて下さった教育委員会、所属校の校長先生及びに諸先生方、その他関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成17年度 【前期】 新規購入図書一覧

教科等	書 名	著 者 発 行 所 等
国 語	音読指導の改革シリーズ 2 国語科の授業 低学年 表現よみ指導のアイデア集	八戸音読研究の会 小森茂 荒木茂
算 数	「算数」をさがしに行こう! 数の悪魔 算数の感覚を伸ばす 計算の意味と計算法則を活用	石原清貴 エンツェンスベルガー 新算数教育研究会 新算数教育研究会
カウンセリング	カウンセリングで極める教師の技 第1巻 カウンセリングで極める教師の技 第4巻 カウンセリングで極める教師の技 第3巻 構成的グループ・エンカウンター 育てるカウンセリングによる教室課題対応全書 6 育てるカウンセリングによる教室課題対応全書 8 育てるカウンセリングによる教室課題対応全書 9 育てるカウンセリングによる教室課題対応全書 10	斉藤優・諸富祥彦 浅井好・諸富祥彦 諸富祥彦・明里康弘 国分康孝 国分康孝・国分久子 国分康孝・国分久子 国分康孝・国分久子 国分康孝・国分久子
道德教育	ハーバーマス 道德の指導法 教育哲学のすすめ 新世紀・道德教育の創造	中岡成文 村田昇 山崎英則 林忠幸
特別支援	特別支援教育ハンドブック	特別支援教育研究所
幼稚園教育	平成15年度 研究紀要 平成16年度 研究紀要 どの子も伸びる 幼児の学力	全国幼稚園教育研究協議会 全国幼稚園教育研究協議会 岸本裕史
学習指導法	自ら学ぶ意欲を育む先生 学びの支援の上手ね先生 どの子も伸ばす学力づくり どの子も伸びる見えない学力	桜井茂男 加藤幸次 岸本裕史 岸本裕史
学校経営	学校の組織設計と協働態勢づくり 新教育課程下の学校経営 No.4 新教育課程下の学校経営 No.6 管理職のための“学校改革”プロジェクト 5巻 職員会議・各種委員会を成功させる40のポイント	教育開発研究所 高階玲治 佐野全吾 葉養正明 高階玲治
教育評価	絶対評価への挑戦 8	瀬川榮志
辞 典	教育用語辞典 教育用語辞典 (現代) 英語教育用語辞典	山崎英則・片上宗二 中谷彪・波本勝年 白畑知彦・富田祐一他

ーご利用にあたってー

- ・当研究所の図書は、島尻管内の教員であれば簡単な手続きでどなたでもご利用になれます。
- ・貸出期間は、一ヶ月間です。必要があれば貸出期間の延長もできます。
- ・一回の貸出期間は三ヶ月を限度とします。
- ・貸出時間は平日の午前九時から午後五時までです。返却もこの時間をお願いします。
- ・貸出を希望する場合は「図書貸出名簿」に書名、氏名、連絡先、返却予定日などを記入します。
- ・貸出した図書が研究所で早急に必要となった場合は、貸出期間内であっても返却を求める場合があります。
- ・図書を破損、紛失した場合は、原則として弁償となりますのでご注意ください。

島尻教育研究所逍遙歌



島尻教育研究所逍遙歌

作詞 宮城恒彦
作曲 親泊明美

一 報得の流にゆるやのに
朝陽に映ゆるきびの原
指導の道を究めんと
集いしわれら意気高し

二 辿る道程 厳しけど
友の情に 涙して
明日に灯 ともさんと
語る仲間の 声やさし

三 遙かに望む 八重瀬岳
うつろふ雲は 綾なして
ぬぐうへ急ぐ 群れ鳥に
光ほのかな 宵の星

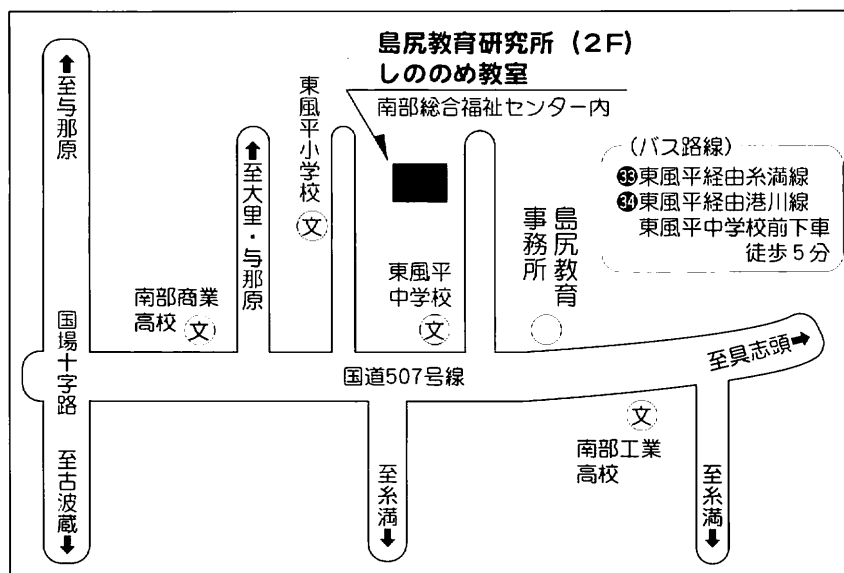
一九九六年五月十三日

東雲

所報「東雲」（しのめ）の意味するもの

「春は曙。やうやう白くなりゆく、山ぎは少し明かりて、紫立ちたる雲の細くたなびきたる」と、枕草子の巻頭に出てくる雲が東雲（しのめ）である。みるみる東の空は白んで明け方を迎える。

この名称は、本研究所を巣立ってゆく教師達の今後の活躍を期待していることと21世紀に向けて、夜明けのシンボルである東雲のような役目を果たす研究所とを意味している。なお、「東」の文字には所在地である東風平にも掛けている。



南部広域行政組合 島尻教育研究所

所長 金城弘一

〒901-0401 沖縄県島尻郡東風平町字東風平965番地

TEL 098-998-9561 FAX 098-998-9420

E-mail simaken1@southernx.ne.jp

simaken2@southernx.ne.jp